

平成 24 年(2012 年) 5 月 9 日
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

- 1 病 害 虫 名 トルコギキョウえそ萎縮病
- 2 病原ウイルス *Moroccan pepper virus* (MPV)
- 3 作 物 名 トルコギキョウ
- 4 特殊報の内容 新発生

5 発 生 経 過

- (1) 発生確認月日：平成 23 年 5 月中旬
- (2) 発生地域：長門市（ハウス）
- (3) 発生状況

トルコギキョウ栽培ハウスにおいて、トルコギキョウ 4 品種の全身の葉にえそ斑点や萎縮症状が発生した。発病株率は 5 % 程度であった。

山口県農林総合技術センターで生物検定をおこなったところ、トンプスウイルス属のウイルスによるえそ萎縮病の可能性が示唆されたため、北海道農業研究センターに同定を依頼した結果、本病は、わが国未発生のトンプスウイルス属の *Moroccan pepper virus* (MPV) によるトルコギキョウえそ萎縮病であることが判明した。

6 本 病 の 特 徴

(1) 病徴

長野県や静岡県から報告されている TBSV や LiNSV によるトルコギキョウえそ萎縮病や LNV によるトルコギキョウえそ病と類似している。

はじめ、葉に白色のえそ斑点を生じる。やがて、えそ斑点が全身に現れるとともに萎縮症状を呈する。

下葉のえそ斑点は拡大し、大型えそ斑紋となる。頂部から数節にかけては退緑やねじれを生じ、葉には輪郭の明瞭なえそ斑点を生じる。

多発時には、発病株を中心に坪状に発病が拡大する。

(2) ウイルスの性質

本ウイルス粒子は約 30nm の球状粒子。

MPV の媒介生物の有無は不明だが、本ウイルス属は、土壌伝染し、主として根部に生じた傷から接触伝染するものが多い。

(3) 宿主範囲

5 科 13 種の植物に対して接種試験した結果、全身感染する植物は、トルコギキョウの他には、一部観賞用のタバコとピーマンの 2 種であった。

7 防 除 対 策

(1) 耕種的防除

- ・発病ほ場での連作は避ける。
- ・健全種子の利用に努める。
- ・発病株は、早期に抜き取り、ほ場外で適正に処分する。
- ・農業用機械（トラクター）の洗浄を徹底する。



図1 えそ斑点が発生した株の症状



図2 葉に発生したえそ斑点症状



図3 えそ斑が拡大し、萎縮した状態